

20. アルストロメリア

・殺虫剤（参考農薬）

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
7	ラノーテープ	作物体の付近に設置する	栽培期間中	1回	花き類・観葉植物(施設栽培)

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注3) 蚊毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防除方 法	注 意 事 項
ウイルス性病害(V)	生育期間	1. ウィルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いる。 2. アブラムシ類防除のため定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウスの開口部を、防虫ネット(0.8mm 目合)で被覆する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 病原ウイルスに、CMV、A1MV及びBBWVなどが知られているが、長野県内の主要なウイルスはA1MVである。また、これらウイルスは全てアブラムシ類により媒介される。 2. これらウイルスの重複感染により病徵が激しく現れるので、アブラムシ類の防除を徹底する。
黄化えそ病(TSWV) 条えそ病(IYSV)(V)	植付前	1. 無病苗を使用する。	1. 病原ウイルスは、いずれもアザミウマ類により伝搬される。 2. これらのウイルスは簡易診断キットにより診断可能である。
	生育期間	1. ウィルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いるようとする。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm 目合)で被覆すると、侵入を軽減できる。また、「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、殺虫剤を定期的に散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	
灰色かび病(F)	生育期間	1. 施設内が過湿にならないよう換気を図り、密植を避ける。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去する。	
オンシツコナジラミ	生育期間 (施設栽培)	1. 施設の開口部を防虫ネット(0.4mm 目合)で被覆する。 2. 黄色粘着トラップを設置して成虫の発生消長を把握する。 3. ラノーテープを10a 当り 50 m ² (幅5cm×200mを5本) の割合で設置する。	1. ラノーは、蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ラノーの使用方法と注意事項については、「ラノーテープの使用方法と注意事項」を参照。

ラノーテープの使用方法と注意事項

ラノーテープは、I G R剤のピリプロキシフェンを含有する黄色テープである。黄色に誘引されテープに接触したコナジラミ類雌成虫は死亡しないが、産んだ卵は孵化が阻害される。その結果、次世代のコナジラミ類の増殖が抑制される。

(1) 使用方法

定植後、オンシツコナジラミの発生初期に 10a 当り 50 m²(幅 5 cm×200m を 5 本)を設置する。畦に沿って直上部に横断幕のように設置し、アルストロメリアの生長に合わせて高さを順次上げる。

(2) 使用上の留意点

ア 施設栽培アルストロメリアでの使用に限る。

イ 使用後に資材(使用済みテープ、巻き芯、空き袋、設置に使用した手袋等)の回収を行うため、地域ごとにまとまって使用することが望ましい。

ウ 1 年の内のある作型に限って使用し、設置期間は最長でも 6 か月以内とする。

エ タバココナジラミバイオタイプQには効果が劣るので注意する。

オ 蚕に対して長期間強い毒性があり使用地域の制限(I G R剤指定地域かつ桑園から 1 km 以上離れた地域)があるので、これ以外では使用しない。

カ 養蚕または桑生産を行っている生産者は使用しない。